

高SSH・探究News

Vol. 24

発行日：令和3年5月20日（木）
発行：山口県立下関西高等学校



西高海峡ディスカバリー および発表会を開催しました。

入学して間もない探究科1年次生を対象とした西高海峡ディスカバリーを4月14日（水）に開催しました。西高海峡ディスカバリーは、**唐戸地区の様々な施設**について地域の方々から説明を受けることにより、それぞれが抱える課題を発見し、解決方法を考えることを目的としたものです。当日は、これから3年間にわたって取り組む探究活動について説明があった後、下関市教育委員会教育部文化財保護課の藤本有紀先生から、**唐戸地区の文化財である歴史的な建造物**について下関市の歴史を踏まえながら紹介していただきました。講義の後には実際に唐戸地区に赴き、下関市観光ガイドの会の方々とともに、それぞれの文化財を調査しました。普段何気なく見ていた文化財の特徴を知ることができ、これまでとは違った見方ができるようになりました。文化財の調査が終わった後、**下関市立しものせき水族館「海響館」**に会場を移し、水生生物の観察を行いました。海響館ではフグやペンギンなどの多様な種を観察したり、イルカなどによるアクティビティーを見学したりすることにより、水生生物の魅力を直接感じることができました。

4月21日（水）の基礎探究の授業では、グループに分かれて調査の結果を振り返りながら研修の成果をまとめるなど、発表に向けた準備をしました。1年生にとっては初めての発表会である**西高海峡ディスカバリー発表会**を5月12日（水）に開催し、それぞれのグループの研修成果を共有することができました。発表会では、気付いた課題とその解決策が披露されるとともに、活発な質疑応答が行われました。

発表会の後に行ったアンケート調査には、「資料を分かりやすくまとめることも大切だが、発表の方法を工夫することにより伝わり方が変わってくるのがよく分かった」や「質問に臨機応変に対応できるようになりたい」等の感想がありました。これから取り組む活動により、1年次生が成長することを願っています。



藤本先生から唐戸地区の文化財である歴史的な建造物について説明を受ける生徒



下関観光ガイドの会の皆様から旧下関英国領事館について説明を受ける生徒



タッチングプールにおいて、磯の生物を手にとって観察する生徒



イルカのアクティビティーを見学する生徒



発表に向け、グループごとにディスカッションする生徒



唐戸地区の建造物の特徴について発表する1年5組の生徒

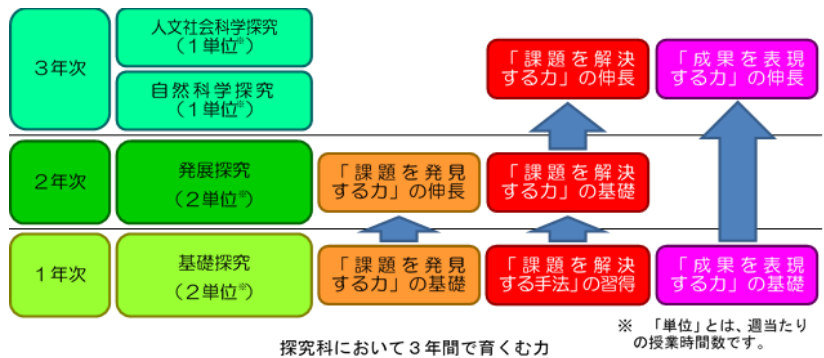


赤間神社について発表する1年6組の生徒

教科「探究」のガイダンスを実施しました。

探究科では、生徒一人ひとりが右図に示した課題を発見する力や課題を解決する力、成果を表現する力を身に付けるため、探究活動に取り組みます。新しい年次を迎えたことから、基礎

探究、発展探究、人文社会科学探究、自然科学探究のガイダンスをそれぞれの年次で開催しました。4月21日（水）に実施した基礎探究（1年次生対象）のガイダンスでは、課題を発見する力や成果を表現する力の基礎を身に付けるため、様々な教科・科目に分かれて取り組む課題解決学習や、九州大学やJAXAと連携した探究活動に取り組むことが紹介されました。4月15日（木）に実施した発展探究（2年次生対象）のガイダンスでは、課題を発見する力を伸長させるとともに、課題を解決する力を身に付けるために取り組む課題研究の年間計画について説明がありました。およそ14の研究班に分かれて取り組む、研究活動が始まります。9月の中間報告会や1月の校内発表会、さらに3月の第3回山口県立下関西高等学校探究学習生徒研究発表会で、それぞれの研究班が優れた研究成果を報告することを期待しています。4月19日（月）に実施した人文社会科学探究と自然科学探究（ともに3年次生対象）のガイダンスでは、課題を解決する力や成果を表現する力をより一層伸長させるため、発表会の準備に取り組むとともに、夏休みなどを利用して、全国各地で開催される発表会に参加することが紹介されました。新型コロナウイルス感染症により、十分な活動が難しいところではありますが、高い志をもった全国の高校生と交流できることを期待しています。



探究科において3年間で育む力

※「単位」とは、週当たりの授業時間数です。



基礎探究のガイダンスに参加する1年次生



発展探究のガイダンスに参加する2年次生



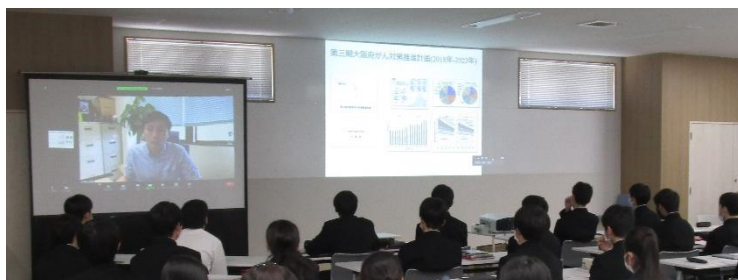
学校外での発表に向け準備を進める3年次生

出前講義「データを用いた効果測定のための比較研究法」を実施しました。

5月6日（木）に、探究科2年次生を対象とした出前講義を実施しました。講師は、広島大学情報学部 准教授 福井 敬祐先生です。発展探究の授業で取り組む課題研究において、アンケート調査や観察、実験等で得られたデータを比較し研究する場合、どのようなことに留意しなければならないか、オンラインで講義をしていただきました。講義では、得られたデータには、偶然起こってしまう偶然誤差と、調査した対象に偏り等があるために起こってしまう系統誤差があるため、よりよい研究を進めるためには、こうした誤差が起らないようにアンケート調査等をどのように工夫すればよいかや、得られたデータから偏りを除去するためにどのような方法をとればよいのかなどの説明をしていただきました。講義の中では、福井先生が作成されたシステムを用いて実際に統計処理を体験する場面もあり、実践的な内容を学ぶことができました。



データを用いて演習に取り組む生徒



これまで取り組まれた研究を紹介される福井先生

講義の中では、福井先生が作成されたシステムを用いて実際に統計処理を体験する場面もあり、実践的な内容を学ぶことができました。